

マレーシア短期派遣プログラム 2016 事前学習レポート

環境科学専攻 1 年 野澤太朔

このプログラムに応募した理由として、東南アジア・マレーシアでの豊富なバイオマスの利用方法や現状について実際に目で見て確かめたいと思ったからである。そのためには、まずマレーシアについて知る必要がある。短い期間の中で現地での活動をより充実させるためには事前準備が大切となってくるので、今回マレーシアについて調査したことをまとめた。

外務省によるとマレーシアの面積は日本の約 0.9 倍、人口は約 3000 万人で、マレー系が 7 割弱、次いで中国系、インド系と多民族国家であり、約 6 割がイスラム教を信仰し、他にも仏教、キリスト教、ヒンドゥー教などを信仰している人々がいる。統計からも分かるように、様々な文化が混じり合った国であり、生活様式なども異なることから各国の文化や習慣を互いによく理解しているのではないかと思う。

昨年の夏、私の所属する研究室にマレーシアからの留学生が交換留学で訪れた。彼はムスリムであり、1 日に 5 回礼拝を行い、食べることのできるものが限られていた。また、昨年の 6 月から 7 月の 1 ヶ月間はラマダーンという日の出から日没まで食べ物と飲み物を断つ期間であった。ラマダーンの実践は、イスラムに背く考えと行いから自身を清める意味があるようである。私は、それまでこのような教えがあることを知らなかったの、そのことがイスラム教、またマレーシアについて知るきっかけとなった。友達、仕事仲間などでもそうであるが、相手が多国籍の場合、特に相手の国について知識を持っていることが大切である。それにより、話しが円滑に進み、相手をもてなすことができるからだ。

さらに、2013 年の外務省のデータによると、マレーシアの主要貿易相手国の第 3 位は輸出入とも日本である。私たちの知らないところでマレーシアは日本に大きく関わっている。輸出、その中でも天然ゴムやパーム油などの農林業部門は大きな割合を占めており、国の収入面にもなっている。しかし、昨今天然ゴムやパーム油を製造した後のバイオマス残渣やその際に排出される廃液が環境問題となっており、これを何とか改善していこうということで、マレーシアではそれらの未利用バイオマスからエネルギー生産を行う技術研究を行っている。私の研究もそれらに密接に関連しているため、現地での研究技術の現状や利用について非常に興味がある。

予定では、現地大学の研究室訪問や日系企業の現地法人視察、バイオエネルギーに関連した国の研究機関などに訪れる予定である。今回一緒に同行する仲間と互いに協力し合い、マレーシアでの活動をより充実させたい。